

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	情報学科						
科目名	教育心理学						
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	選択(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒 Mio KOBAYASHI						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育場面における教育心理学の必要性を説明できる。 ・発達理論および主要な発達用語について説明できる。 ・学習理論および主要な教授学習法について説明できる。 ・パーソナリティ理論および人格の測定法について説明できる。 ・教育相談の方法を理解し、代表的な心理療法について説明できる。 ・学級集団の特性および集団測定法について説明できる。 						
日程と内容	<p>9/15 導入～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示、教育心理に含まれる領域とその意義～</p> <p>9/22 心理学の歴史と教育心理学の成立、教育心理学の方法</p> <p>9/29 発達～発達の捉え方、遺伝か環境か論争～</p> <p>10/7 発達～発達の様相、発達段階の諸説①～</p> <p>10/14 発達～発達の様相、発達段階の諸説②～</p> <p>10/21 発達～愛着理論、発達に関連するキーワード～</p> <p>10/28 学習～学習理論、記憶のメカニズム～</p> <p>11/9 学習～動機づけ、教授学習法～</p> <p>11/11 パーソナリティ～パーソナリティの定義、パーソナリティ理論～</p> <p>11/18 パーソナリティ～心理検査によるパーソナリティの測定～</p> <p>11/25 知能～知能の捉え方、知能検査～</p> <p>12/2 不適応行動～欲求不満、葛藤、適応機制、問題行動～</p> <p>12/9 心理療法～カウンセリングの基本的技法、心理療法理論～</p> <p>12/16 教育評価～教育評価の意義、教育評価の方法～</p> <p>12/23 学級集団～集団の特性、集団の発達プロセス、集団測定法～</p> <p>(1/20 最終試験)</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	心理学を初めて学習する者がほとんどであり、予定の日程よりもペースを落として進行したが、最終的な合格率は77%にとどまった。教育心理学は教員採用試験での1次試験科目であり、知識の定着が求められる科目である。採用試験に直結する内容であること意識して十分に復習を行ない、到達目標を達成できた学生と、普段の受講態度も悪く、学習が不十分なまま試験を受けたことがうかがえる学生とに、二極化している傾向があるようである。						
反省点	教員採用試験科目における教育心理学を網羅的に扱うことを目的として授業を構成したため、初学者に対しては内容が幅広く、理解が難しい点があったと思われる。授業内容や授業自体の評価はすべて3以上の肯定的なものであったが、教員の指導の仕方や接し方に関する設問において1名の学生から不満が挙げられていたため、全員が授業を肯定的な気分で受けられるよう、より改善を図っていきたい。						
来年度の計画	基本的な到達目標および授業内容は同じであるが、初学者が多いことを意識して、進行ペースにより配慮して進行していきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業の理解度に関する評定では、「理解できた」と評定している受講者が全体の80%となり、一定の達成に至ったと考えられる。「授業を受けたことによって授業内容に興味を持つようになった」については、全員が中性的～肯定的の評価をつけており、教員として人の心に向かい合うという意識の向上に繋がったのではないかと考えられる。自由記述において、「声が大きくて分かりやすい」「板書が読みやすい」というコメントが複数見られたことから、これらの授業スタイルについては今後も継続していきたい。						
履修登録者数	51名	定期試験 受験者数	43名	合格者数	33名	合格率	77%